

くろ谷 金戒光明寺

こんかいこうみょうじ

智者のふるまいをせずして
ただ一向に念仏すべし



浄土宗大本山 紫雲山・くろ谷

金戒光明寺

KONKAIKÔMYÔJI Temple

〒 606-8331 京都市左京区黒谷 121 Tel.075-771-2204

<http://www.kurodani.jp>



所在地と交通

- JR JR京都駅から市バス 100 番で岡崎道下車徒歩 5 分。
- 地下鉄 地下鉄東西線蹴上駅から徒歩 30 分。
- 阪急 阪急京都線四条河原町駅、または阪急烏丸駅から市バス 5 番で東天王町下車徒歩 10 分、32 番・203 番で岡崎道下車徒歩 5 分。
- 京阪 京阪本線祇園四条駅から市バス 5 番で東天王町下車徒歩 10 分。
京阪本線祇園四条駅から市バス 203 番で岡崎道下車徒歩 5 分。
阪急鴨東線神宮丸太町駅から徒歩 30 分。または市バス 204 番で岡崎道下車徒歩 5 分。
京阪鴨東線出町柳駅から市バス 203 番で岡崎道下車徒歩 5 分。
- 自動車 名神高速・京都東 IC より 15 分。京都南 IC より 35 分。駐車場は 30 台収容。

白河禪房・くろ谷

金戒光明寺

宗旨||浄土宗 開山・宗祖||法然上人(源空)
本尊||阿弥陀如来 唱える言葉||南無阿弥陀仏

くろ谷の地は、法然上人四十三歳の承安五(一二七五)年

比叡山の修行を終えてこの地で念仏をされた時

紫雲全山にたなびき、光明があたりを照らしたことから

浄土宗最初の念仏道場を開かれた場所である。

浄土宗七大本山の一つで、山越阿弥陀図(重文)など

数多くの文化財を所蔵する。



紅衣を纏う三重塔



花の頃の清和殿



山門雪景



薫風渡る御廟



御影堂 [大殿]

御影堂 [大殿]

内陣正面には宗祖法然上人七十五歳の御影（坐像）を奉安している。昭和十九年に再建されたもので、円光大師二十五霊場第二十四番、京都二十五処第七番の霊場となっている。

阿弥陀堂

慶長十（一六〇五）年豊臣秀頼により再建。当山諸堂宇中最も古い建物である。本尊阿弥陀如来は、恵心僧都最終の作「アミおさめ如来」と称されている。洛陽四十八願所第二十五番、善光寺四十八願所にもなっている。

山門

万延元（一八六〇）年落成。楼上正面には後小松天皇宸翰「浄土真宗最初門」の勅額がある。

三重の塔（重文）

徳川秀忠公菩提のため建立された三重の塔に、日本三文殊の一体中山文殊（運慶作）を安置していたが、現在は御影堂に移して安置している。



山門



納骨堂（旧経蔵）



三重の塔（重文）



紫雲の庭



法然上人「鏡の御影」



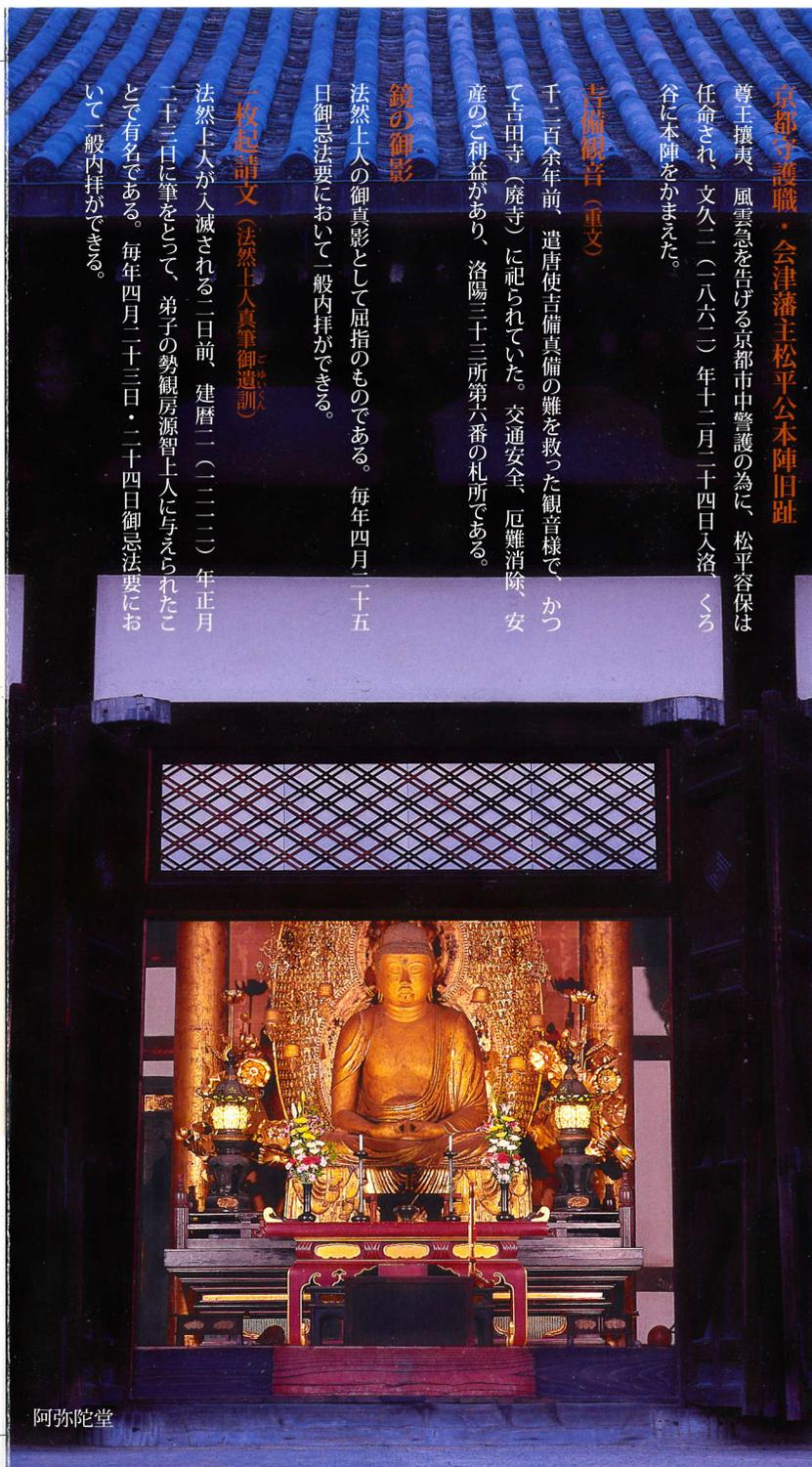
中山文殊



吉備観音 (重文)



一枚起請文 (法然上人真筆御遺訓)



阿弥陀堂

京都守護職・会津藩主松平公本陣旧跡

尊王攘夷、風雲急を告げる京都市中警護の為に、松平容保は任命され、文久二（一八六二）年十二月二十四日入洛、くろ谷に本陣をかまえた。

吉備観音 (重文)

千二百余年前、遣唐使吉備真備の難を救った観音様で、かつて吉田寺（廃寺）に祀られていた。交通安全、厄難消除、安産のご利益があり、洛陽三十三所第六番の札所である。

鏡の御影

法然上人の御真影として屈指のものである。毎年四月二十五日御忌法要において一般内拝ができる。

一枚起請文 (法然上人真筆御遺訓)

法然上人が入滅される二日前、建暦二（一二二二）年正月二十三日に筆をとって、弟子の勢観房源智上人に与えられたことと有名である。毎年四月二十三日・二十四日御忌法要において一般内拝ができる。